Medical and Pharmaceutical Society for WAKAN-YAKU

II－C－4

呉茱萸の生薬薬理学的品質評価研究

近畿大学薬学部薬用植物学研究室　○廣瀬訓和，松田秀秋，浅野年紀，久保道徳
岐阜薬科大学生薬学教室　田中稔幸，飯沼宗和

【目的】　呉茱萸は呉茱萸湯，当帰四逆加呉茱萸生姜湯等に配剤され，陰虚症の頭痛，腰痛症等に応用される漢薬であり，日本薬局方第十二改正には「本品は *Evodia rutaecarpa* BENTHAM あるいは *E. officinalis* DODE の果実である」と記載されている．前者は中国渡来種日本栽培品（大粒）のもので，後者は中国からの輸入品（小粒）のものを指している．呉茱萸の薬理活性については鎮痛，体温上昇，血流増加作用など詳細に報告されているが，品質評価に関する研究については未だ報告がなく，両者のいずれの呉茱萸を使用すれば鎮痛的な薬能が得られるのか確証するものがない．そこで今回，呉茱萸の薬効を評価できると考えられる抗ヒスタミン，抗セロトニン，抗ノルアドレナリン作用，酢酸ライジング法による抗侵害受容作用について検討した．また中国産は小粒なため一部の生薬取扱者では未熟な採取品ではないかともいわれているため，日本産（*E. rutaecarpa*）の未熟から完熟するまでの期間を６回採取し，各時期の薬理活性を抗ヒスタミン作用にて検討した．

【方法および結果】　中国産大阪市場品（*E. officinalis* と推定）と奈良県産大阪市場品（*E. rutaecarpa*）の 70% メタノール抽出エキスを用いて実験を行った．試験操作が簡便なマグヌス法を用いて抗ヒスタミン，セロトニン作用（モルモット摘出回腸），抗ノルアドレナリン作用（ラット摘出大動脈）の比較を行った．その結果，中国産および日本産呉茱萸はいずれも抗ヒスタミン，セロトニン，ノルアドレナリン作用を示し，酢酸ライジング法による抗侵害受容作用においても，両呉茱萸は活性を示したが，いずれの試験法においても，中国産呉茱萸が日本産のそれよりも強い作用を有することが明らかとなった．さらに，近畿大学薬草園で各時期に採取した *E. rutaecarpa* についてマグヌス法にて抗ヒスタミン作用を検討したところ，採取時期による作用の変動はまったく認められなかった．

【考察】採取時期の相違による作用の変動が見られなかったことから，中国産呉茱萸と日本産呉茱萸の活性差異は基原植物に起因することが明らかとなった．以上の点から，呉茱萸の使用（特に鎮痛作用）に際しては，中国産輸入品を使用するのが妥当と思われるが，中国には *Evodia* 属植物が25種も分布しており，特にその中でも甘粛省，湖南省産のものが最良品ともいわれていることから，さらに詳細な調査研究し，正品の呉茱萸を決めたい．

NII-Electronic Library Service